

街を行く

第44回 新橋 *shinbashi*

オヤジだけの街ではない

今回は趣向をコロッと変えて、「オヤジの聖地」であるこの街を取り上げました。「汽笛一声新橋を」と鉄道唱歌でも歌われている様に、もともとは東京を代表する街だったのです。今もそうだとされるかもしれませんが、何しろ街としてのステータスが凄く高かったのです。関東大震災で倒壊したのですが、その駅舎はルネッサンス様式で今の東京駅に負けないものが建っていたようです。それに以前は貨物駅の「汐留駅」に加え「烏森駅」もありました。知っていましたか。震災までは東京駅が無かったので、ここ新橋こそ東京の玄関口だったのです。この様なかつての栄華は今や、汽車ポップの前の待ち合わせや、ほろ酔いのオヤジが街頭インタビューでからかわれる歓楽街へと変貌を遂げたのです。

しかし今も昔も変わらないものは、この街の一番の魅力である地便の良さ。JR山手線と京浜東北線、東海道線や地下鉄銀座線が交差しているのですから。皆さんも夜だけでなく、日中のビジネスで訪れることのほうが多いはず。小生も週に何度かは仕事でこの街を訪れていますので、感覚的には昼の街なのです。オフィス街の顔としては、最近では悲願（本当にそうなのかは解りませんが）のマッカーサー通りの完成が大きく作用していますし、将来的にはオリンピックの選手村まで伸びる環状2号線として重要な役割を背負っています。

しかし、このインフラの完成までには想像を絶するほどの長い年月がかかっています。名前にマッカーサーが付いているの



かつて東京のターミナルとして、今はタウンダウンとして栄える新橋は、再開発を経てさらなる可能性を秘めている

ですから、驚きですよ。時間がかかったと言うことは、すなわち立ち退きなどの都による収用が大変だったってことです。小生の知り合いでも何人かはこの立ち退きで、この街を離れました。本当の意味での再開発は街づくりの基本であり、そこからは色々な物語が生まれるのです。

再開発という観点から考えると、都心の中ではまだ多くの可能性を秘めている街でもあります。少し中に入って行くとレトロ口を感じた路地も多く、郷愁を漂わせています。そこに立ち並ぶほとんどは飲食店で、良くも悪くもこんなに店があるものだと思うぐらいの数です。ここが再開発され、おしゃれで大規模な飲食ビルが建ち並んだとしたら、どの様になるのでしょうか。渋谷や新宿を考えてみてください。以前とは雰囲気が変わり、ある意味では安全でオシャレではありますが何か無機質な感じがするのは私

鉄が絡んだターミナルではないのでなかなか進まないし、現実にはかなりむずかしいものがあるでしょう。

でも、オフィスや飲食が無造作に並び、それでいて皆から愛され、夜も昼も元気で色々な顔を持つ街。最高じゃないですか。考えれば考える程に奥が深いので、もう一度勉強し直してみます。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役就任。